

開催概要

1 名称

第9回学生政策提案フォーラム in さいたま

2 開催の趣旨

「大学コンソーシアムさいたま」加盟大学の学生が、さいたま市の政策・事業について企画検討・提案することにより、地域社会への愛着と関心を深め、もってさいたま市の発展に寄与することを目的に開催する。

3 主催

大学コンソーシアムさいたま（加盟大学：埼玉大学、埼玉県立大学、浦和大学・浦和大学短期大学部、慶應義塾大学薬学部、芝浦工業大学、聖学院大学、日本大学、人間総合科学大学、放送大学埼玉学習センター、目白大学、国際学院埼玉短期大学）、さいたま市

4 開催日時

令和元年11月24日（日）14時30分から18時まで

5 開催場所

武蔵浦和コミュニティセンター 多目的ホール（サウスピア9階）

6 参加対象

「大学コンソーシアムさいたま」加盟大学の大学生・大学院生（グループ（ゼミなど）又は個人）

7 提案テーマ

(1) 共通テーマ：2020年東京大会に向けたおもてなし

さいたま市は、東京2020大会における、サッカー（埼玉スタジアム2002）とバスケットボール（さいたまスーパーアリーナ）の開催会場となっている。

一人でも多くの方々に、それぞれの立場から大会に参加してもらおうよう、「自分たちで東京2020大会を成功させたい」「東京2020大会で来訪する選手や観客にさいたま市の魅力を感じてもらいたい」「東京2020大会をきっかけとしてさいたま市をより良いまちにしたい」といった想いを具体化するための政策・事業の提案を求める。

(2) 自由テーマ

さいたま市を市民一人ひとりがしあわせを実感でき、市民や企業から選ばれる都市にするための政策・事業の提案を求める。

8 審査及び表彰

フォーラム当日にプレゼンテーションしていただき、その内容を有識者及び本市職員が審査し（別表）、優秀な提案を表彰します。（最優秀賞1グループ、優秀賞3グループ）

別表 「第9回学生政策提案フォーラム in さいたま」 審査委員

	団体名等	氏名	備考
1	首都大学東京 准教授	長野 基	審査委員長
2	株式会社サンケイリビング新聞社 リビングさいたま編集長	根松 敦子	
3	東京海上日動火災保険株式会社 埼玉中央支店営業課担当次長	金山 勝彦	
4	さいたま市スポーツ文化局 オリンピック・パラリンピック部参事	中村 浩幸	

参考 「第9回学生政策提案フォーラム in さいたま」 運営会議委員

	大学名等	役職等	氏名
1	埼玉大学	総務部総務課長	福島 謙吉
2	埼玉県立大学	事務局	鈴木 久見子
3	浦和大学・浦和大学短期大学部	浦和大学・浦和大学短期大学部 総務課長	熊谷 康尚
4	芝浦工業大学	産学官連携コーディネーター	杉野 博之
5	聖学院大学	管理部長	島村 宣生
6	日本大学法学部	庶務課・課長	中村 光宏
7	人間総合科学大学	地域・産学連携センター委員長	梅國 智子
8	放送大学埼玉学習センター	事務長	岸 隆一
9	目白大学	目白大学庶務部長	篠口 政司
10	国際学院埼玉短期大学	学生部長・教授	中平 浩介
11	さいたま市	都市戦略本部 行財政改革推進部副参事	柳田 香

第9回学生政策提案フォーラムinさいたま 発表グループ一覧

(発表順)

項番	大学名	グループ名	代表者	指導教員	参加 学生数	共通・自由 テーマ	発表テーマ
1	埼玉県立大学	オールスマイル	恩田 真歩	押野 修司	5	共通	心のバリアフリー
2	埼玉大学	齋藤ゼミナール	青木 涼	齋藤 友之	10	共通	まんがを用いた外国人観戦客への情報発信
3	芝浦工業大学	さいたまオアシスプロジェクト	水野 真子	増田 幸宏	7	共通	東京オリンピック・パラリンピック開催時の雪の利活用促進について
4	人間総合科学大学	食材ファンクラブ	廣仲 真弥	梅國 智子	15	自由	食品ロスフェスinさいたま
5	埼玉県立大学	SMYYS	清水 麻由	押野 修司	5	自由	さいたま市民が安全に暮らせる緊急システム
6	日本大学	福島ゼミナールAチーム	山崎 利駆	福島 康仁	8	共通	サイタマップ
7	日本大学	福島ゼミナールBチーム	日馬 啓晶	福島 康仁	7	共通	さいたまフォトラリーツアー～文化芸術によるおもてなし～
8	人間総合科学大学	UHAS CLUB	小澤 裕人	梅國 智子	16	共通	瞬間保冷剤を活用した熱中症対策

グループ紹介

大学名	埼玉県立大学
グループ名	オールスマイル
発表テーマ	(共通テーマ) 心のバリアフリー
指導教員	押野修司

参加学生

氏名(ふりがな)	学部・学年	氏名(ふりがな)	学部・学年
【代表者】 恩田 真歩 (おんだ まほ)	保健医療福祉学部 作業療法学科 3年	()	学部 年
和泉 江里花 (いずみ えりか)	保健医療福祉学部 作業療法学科 3年	()	学部 年
金井 佑佳 (かねい ゆか)	保健医療福祉学部 作業療法学科 3年	()	学部 年
小林 夏々海 (こばやし ななみ)	保健医療福祉学部 作業療法学科 3年	()	学部 年
佐々木 涼香 (ささき りょうか)	保健医療福祉学部 作業療法学科 3年	()	学部 年
()	学部 年	()	学部 年

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

私たちは、障害のある方が外出する際に困っている、健常者の冷たい態度・視線を改善するために、「心のバリアフリー」に着目して、困っている人を自然に手助けすることができる姿勢・雰囲気づくりに貢献できる提案内容を考えた。障害のある方の目線に立った提案をすることができるのは、障害のある方が障害と折り合いをつけながらその人らしく生活できるようにサポートする「作業療法」を学ぶ私たちならではであると考えている。オリンピックを間近に控えた今、さいたま市で「心のバリアフリー」を確立することで、さいたま市は、オリンピック終了後も誰もが住みやすい都市であり続けるのではないかと考えている。

政策提案概要書

1.背景

さいたま市で実施された外出の際に困ることに関するアンケートによると、身体障害者、精神障害者、知的障害者の方々は、「困ったときに手助けしてもらえない」「周囲の目が気になる」などの外出の際の周囲の冷たい視線・態度について答えた割合が高かった。これを改善するためには、健常者が障害のある方をもっと身近に感じる必要があると考える。来年の夏に開催される東京オリンピックでは、さいたま市でサッカー、バスケットボールの試合が行われる予定である。オリンピック会場には、障害のある方を含むたくさんの方が集まってくることが予想される。したがって、会場に来たすべての人が観戦を楽しむことができるようにするために、オリンピックを間近に控えた今、見守りや手助けを必要とする場面で自然に手を差し伸べることができる「心のバリアフリー」が必要であると私たちは考える。

2.提案内容

今回私たちは、「心のバリアフリー」の確立に貢献できると思われるものを2つ提案する。

1つ目は「バリアフリーMAP」だ。このマップを使用すると、さいたま市内で行われるイベントの情報と現在地からイベント会場への安全で車いす利用者でも通りやすい行き方を知ることができる。ここでの「イベント」は、夏祭りなど現在もさいたま市内で行われている既存のものを指している。イベントの情報ページには、障害のある方に提供しているサポートの情報なども載せ、障害のある方でも気兼ねなくイベントに参加できることをアピールする。

2つ目は、「障害者の方のお手伝いがしたい」と考えてくださる健常者に身につけていただくラバーバンドだ。これは、「バリアフリーMAP」で情報が提供されるイベントで配布し、障害のある方などが誰かの手助けを必要とするときに声をかけやすい雰囲気を作る。また、イベント終了後も普段からこのラバーバンドを身につけていただくことで、このラバーバンドの認知度を図り、いつでも誰かの手助けを必要とする場面で声を掛けることができる雰囲気を作ることに貢献できると考える。

3.提案の効果

「バリアフリーMAP」の効果としては、このマップを使うことで障害のある方でも目的地まで安全に行くことができること、障害者と健常者が共にイベントに参加することで障害の有無にかかわらず楽しい時間を共有することができることをすべての人に実感してもらい、障害者に対する偏見の減少とポジティブな印象につながる事が挙げられる。また、ラバーバンド配布の効果としては、障害のある方が困っているときにいつでも声をかけられる雰囲気を作り、「助けてほしい」と思っている人が自らアピールすることで、声掛け・助け合いを促進できるということが挙げられる。これらによってオリンピックまでに「心のバリアフリー」を確立することができれば、様々な人が集まるオリンピック会場でも、すべての人が気持ちよく試合を観戦でき、さらにはオリンピック終了後まで「心のバリアフリー」をオリンピックのレガシーとして遺すことができると考える。

グループ紹介

大学名	埼玉大学
グループ名	齋藤ゼミナール
発表テーマ	(共通テーマ) まんがを用いた外国人観戦客への情報発信
指導教員	齋藤友之

参加学生

氏名(ふりがな)	学部・学年	氏名(ふりがな)	学部・学年
【代表者】 青木 涼 (あおき りょう)	経済学部 3年	内海隆太 (うちうみ りゅうた)	経済学部 3年
佐藤 道仁 (さとう みちひと)	経済学部 3年	土田 浩史 (つちだ ひろし)	経済学部 3年
皆原 達也 (みなはら たつや)	経済学部 3年	石川 秋歩 (いしかわ あきほ)	経済学部 2年
今野 美沙 (このの みさ)	経済学部 2年	椿 友作 (つばき ゆうさく)	経済学部 2年
濱津 慧斗 (はまつ けいと)	経済学部 2年	三鷹 星晃 (みたか せいこう)	経済学部 2年
()	学部 年	()	学部 年
()	学部 年	()	学部 年

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

今回の提案では市の文化であるマンガを、行動経済学とマーケティング心理学を活用した広報戦略として作成しました。

本提言のポイントはマンガが情報発信においていかに有用なメディアかという点です。そのため、あくまでも私たちが提案するマンガを載せる紙コップや紙袋などの広報媒体は一案であり、市がこれからパンフレットやポスター、WEBサイトなどを開発していく上での参考にしていただくのが本提言の主目的であります。

反省点としては、マンガは加工の自由度が高いがゆえに製作には技能が求められ、提言したい「マンガ」の具体例を素人である我々では上手く再現出来なかったことです。具体例は素人の努力物として暖かい目で見てください。

政策提案概要書

問題提起 さいたま市にはオリンピック期間中、通常時の3年分の外国人観光客が訪れるため、今回の提言で議論されるような様々な問題が生じてくる。そして、それら問題の根底には「情報不足」という要因がある。しかし外国人の情報収集は言語や文化の違いにより難しい。ゆえに行政には効果的な情報発信を行っていくことが求められる。

効果的な情報発信をためには「行動変容のための情報発信の5段階モデル（①認知獲得②関心惹起③探索誘導④着地点整備⑤行動促進）」（河井 孝仁）の各段階に一貫した取り組みが求められる。以下これに対応した市の現状分析、提案を行う。

市の現状①差別化不足②接触機会の不足③QRコードのアクセス先の限定的英語対応
④観光協会WEBサイト(英)の情報量と種類の不足⑤施策の発信不足

政策案：まんがを用いた外国人観光客への情報発信（政策名未定）

概要：(1)注意喚起的内容の「マンガ」の広報によってQRコードを経由して(2)WEBサイト（改修中のSTIBサイト）に誘導し、効果的かつ効率的な情報発信を行う

主体：行政（まんが制作費・WEB整備・広告媒体費用）企業（WEB広告掲載）

対象：（外国人）観光客

手段：（1）マンガによる広報（2）WEBによる情報発信

（1）マンガによる広報 -掲載媒体 ポスター・チラシ・紙コップ・紙袋-
なぜマンガなのか（①認知獲得②関心惹起③探索誘導との対応）

認知獲得

①まんがの訴求力...先進国でマンガの娯楽として定着&日本でのマンガへのニーズ
→他より好意的に受け取られるメディアであり認知（受信）のハードルが低い。

②まんがの情報処理量...右脳左脳での同時処理であり文字と画像の同時処理
→効率的に情報を処理できるため脳の負担が他より低く認知（受信）のハードルが低い。

関心惹起

①ストーリーによる関心増加...一定の話の流れがあった方が内容への関心を高める。

②疑似体験化による当事者意識付与...旅行中の外国人を主人公にすることで自らの現状と同一視でき、問題意識が喚起されやすくなる

探索誘導—内容・形式に行動経済学・心理学を活用—

①プロスペクト理論...知らない損失を煽りQRコードへの動機付けを行う。

②ツァイガルニク効果...結論や続きをあえて隠しQRコードへの動機付けを行う。

（2）WEB整備

着地点整備

市の文化、観光客にニーズのある情報、観光客に周知しなければならない情報をマンガによって簡単でわかりやすく説明。マンガでの説明の後に詳しい説明又はURLを記載でより詳細で補足的な情報発信を図る。

①各カテゴリ別にマンガを配置・チラ見せ

マンガをきっかけに様々な情報へ誘導し、一つの項目への関心で多様な情報の獲得へ

行動促進

②カテゴリに対応した施策を紹介（例 熱中症の項目⇄給水所の配置情報）

グループ紹介

大学名	芝浦工業大学
グループ名	さいたまオアシスプロジェクト
発表テーマ	(共通テーマ) 東京オリンピック・パラリンピック開催時の雪の利用促進について
指導教員	増田 幸宏 (システム理工学部 環境システム学科 教授)

参加学生

氏 名 (ふりがな)	学部・学年	氏 名 (ふりがな)	学部・学年
【代表者】 水野 眞子 (みずの まこ)	システム理工学部 4年	加藤 拓朗 (かとう たくろう)	システム理工学部 4年
荒井 敦哉 (あらい あつや)	システム理工学部 4年	竹井 敦志 (たけい あつし)	システム理工学部 4年
新井 健 (あらい けん)	システム理工学部 4年	塚本 啓之 (つかもと ひろゆき)	システム理工学部 4年
石崎 将貴 (いしざき まさき)	システム理工学部 4年	()	学部 年
()	学部 年	()	学部 年
()	学部 年	()	学部 年

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

スノーパックに関しては、これまでに行われた複数の実証実験で、多くの利用者が効果を実感し、好感を持っている様子が見受けられた。本提案を契機に、スノーパック事業における諸問題の解決に向けた議論がさらに進んでいくことを期待する。

雪テントに関しては、商用電源の有無を問わず、屋外の様々な場所に設置し冷房空間を創出することができるという強みを生かした提案を行った。この強みを生かし、熱中症患者用の救護空間を設けたテントを、あらかじめ熱中症の発症リスクの高さが懸念される場所や、冷房空間へのアクセスが良くない場所に設置することで、より多くの人命を救うことにつながるのではないかと考える。

今回の雪事業は、東京オリンピック・パラリンピック(以下東京 2020 大会)での活用を想定し、埼玉スタジアム周辺・さいたまスーパーアリーナ周辺を対象地として選定したが、本提案を機に他会場での実施や、東京 2020 大会以降の雪事業の継続を願う。


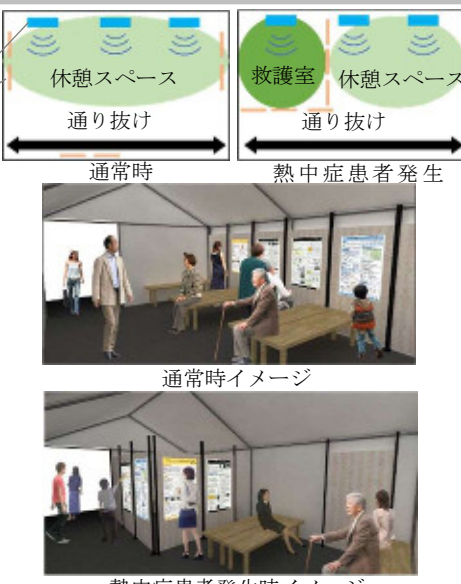
政策提案概要書

東京オリンピック・パラリンピック開催時の雪の利用促進について

提案の背景

さいたま市では来年開催される東京 2020 大会に向け、熱中症リスク低減のために東日本連携都市である南魚沼市と共に、雪を用いた熱中症対策を実施している。対策として雪を袋に詰めたスノーパックの配布と雪を冷熱源として利用するテントの設置を実施している。芝浦工業大学は大会会場に指定されている埼玉スタジアム 2002 とさいたまスーパーアリーナで行われた事業の実証実験に参加し、計測をした後、効果の確認及び問題点の洗い出しを行った。そこで見つかった問題点を改善し、雪事業の活性化を進め、東京 2020 大会開催時の熱中症リスクの低減を目指すプロジェクトを開始した。

提案概要

スノーパック	<p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パックのポイ捨て増加 ・ごみ分別の誤り ・プラスチックごみ排出量の増加 <p>解決策</p> <p>① 投票式ごみ箱の設置</p> <p>ごみを捨てながら投票できるごみ箱を設置する。パック専用のごみ箱を設置することでポイ捨てを減らすことが期待できる。また、投票テーマをスポーツやさいたま市の政策案に結びつけることでごみ箱に捨てることへの動機付けを図ることができると考えられる。</p> <p>② ペットボトルの活用</p> <p>空のペットボトルに雪を積み既存のスノーパックと併用を行う。この方式は、既存の形式でのスノーパック事業に比べ、ごみの排出量とポイ捨ての減少が期待できる。</p>	 <p>投票式ごみ箱イメージ</p>
雪テント	<p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症患者受け入れ態勢の未整備 ・通り抜けのみの利用 ・テント内温度の偏り <p>解決策</p> <p>テント内部は通り抜けスペースと休憩スペースを設ける。冷却効果の高い送風機側に休憩スペースを配置する。軽量ベンチとパーテーションを置き、状況に応じて柔軟に配置を変更できる空間とし、救護患者が発生した場合は、救護室を確保する。また、パーテーションにポスターを掲示し、南魚沼市やさいたま市の PR 効果を図る他、熱中症についての解説を載せ、効果的な熱中症対策の啓発も行う。</p>	 <p>通常時</p> <p>熱中症患者発生</p> <p>通常時イメージ</p> <p>熱中症患者発生時イメージ</p>

グループ紹介

大学名	人間総合科学大学
グループ名	食材ファンクラブ
発表テーマ	(自由テーマ) 食品ロスフェス in さいたま
指導教員	梅國 智子

参加学生

氏名(ふりがな)	学部・学年	氏名(ふりがな)	学部・学年
【代表者】 廣仲 真弥 (ひろなか まや)	人間科学部 3年	竹内 萌 (たけうち めぐみ)	人間科学部 3年
飯島 俊紫 (いいじま しゅんじ)	人間科学部 4年	長谷川 郁馬 (はせがわ いくま)	人間科学部 4年
浅沼 咲妃 (あさぬま さき)	人間科学部 2年	金田 明日香 (かねだ あすか)	人間科学部 2年
河原 亮太 (かわはら りょうた)	人間科学部 2年	齋藤 喬盛 (さいとう きょうせい)	人間科学部 2年
北島 孝祐 (きたじま こうすけ)	人間科学部 2年	熊坂 颯 (くまさか はやて)	人間科学部 2年
石塚 喜平 (いしづか きっぺい)	人間科学部 1年	菊池 葉月 (きくち はづき)	人間科学部 1年
小松原 希美 (こまつばら のぞみ)	人間科学部 1年	小山 夏菜 (こまつ かな)	人間科学部 1年
佐々木 雄大 (ささき ゆうだい)	人間科学部 1年	富永 雅貴 (とみなが まさき)	人間科学部 1年
外川 賢樹 (とがわ まさき)	人間科学部 1年		

検討・提案について(アピールポイント、反省点、所感など)

食品ロスの現状において各家庭での過剰廃棄や、見た目の悪い野菜や果物の廃棄が問題だと考えた。そこで食品ロスフェスを開催し食品ロスについての講義や過剰除去された野菜や果物の活用方法を教えることで食品ロス削減に繋がればよいと考えた。

政策提案概要書

1. 食品ロスの現状

現在の日本では年間約 2800 万 t もの食品廃棄物量があり、そのうちの食材ロス量は約 640 万 t にもなる。食品ロスの内訳は家庭系が 48%、事業系が 52%となっている。今回の政策提案では地域の方々を対象とし、家庭系の食品ロスに焦点を当ててみると、家庭系食品ロスの内訳は過剰除去が 52%、食べ残しが 27%、直接廃棄が 19%となっている。

2. 問題提議とその理由

今後食品ロスが増え続けてしまうと、資源の無駄や環境負荷を増大、経済損失につながっていくと考えられる。そこで私たちの一番身近である家庭での料理を行う際の食品ロスを減らしていくために、食品ロスについての講義とリメイク料理の販売を行う『食品ロスフェス in さいたま』を行うことにした。この政策を通してより多くの方に食品ロスについて知ってもらうことが食品ロスの削減に繋がるのではないかと考えた。

<提案理由>

1. 経済的に良くなる。
2. 環境的に良くなる。
3. 地域連携及びコミュニケーションがとれる。

3. 政策概要

食品ロスは現在、農林水産省が立てた 2000 年の食品ロス率を 2030 年までに半減させるという目標がすでに達成されている。しかし私たちはまだ食品ロスを削減できると考えたため、これ以上食品ロス率を上げないもしくは軽減させることを目標とした。そこで提案させていただくのが『食品ロスフェス in さいたま』である。『食品ロスフェス in さいたま』は 3 ヶ月に 1 回開催し、参加費の 200 円を形状の良くない食材と交換することとした。3 つのブースを設置し、1 つ目のブースでは食育と兼ねる講義、2 つ目のブースでは形状の良くない食材の販売、3 つ目のブースではリメイク料理の販売を行う。食育と兼ねる講義では食品ロスの現状、食品ロスを防ぐには、リメイク料理の説明について行い、大学生や主婦だけにとどまらず幅広い世代の方に関心を深めてもらえるようにわかりやすいものを使用し講義を行う。形状の良くない食材は地元の農家の方と協力し、普段廃棄してしまうようなものをいただき使用する。すなわちこのイベントは農家の方の連携が不可欠である。このことから地域の連携及びコミュニケーションがとれると考えられる。また長期にわたりこのイベントを続けていくことによって食品ロスが削減されると食材を無駄に買うことが減り経済的にも良くなり、ゴミの量が減ることによってゴミ処理施設の稼働時間も減り環境的にも良くなると考えられる。以上のことから食品ロス削減によって多くの効果が生まれるため、今後も議論を続けていくべき課題であると考えられる。

グループ紹介

大学名	埼玉県立大学
グループ名	SMMYS
発表テーマ	(自由テーマ) さいたま市民が安全に暮らせる緊急システム
指導教員	押野修二

参加学生

氏 名 (ふりがな)	学部・学年	氏 名 (ふりがな)	学部・学年
【代表者】 清水麻由 (しみずまゆ)	保健医療福祉学部 3年	()	学部 年
須田愛美 (すだまなみ)	保健医療福祉学部 3年	()	学部 年
水野文音 (みずのあやね)	保健医療福祉学部 3年	()	学部 年
横山茉莉 (よこやままり)	保健医療福祉学部 3年	()	学部 年
米津里紗 (よねづりさ)	保健医療福祉学部 3年	()	学部 年
()	学部 年	()	学部 年
()	学部 年	()	学部 年

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

私たちは大学で心疾患・脳疾患によって全身に血液が運ばれない時間が長くなればなるほど後遺症が重度になってしまうことで社会復帰が難しくなることを学びました。リハビリテーションを学ぶものとして、少しでも後遺症を少なくし、その後の生活を行いやすくすることが重要であると考えます。そこで、より迅速な一次救命措置を行える緊急システムを考えました。

私たちが提案するシルバーホンの導入は東京都立川市の事業でも使用されており、現実性が高いと考えます。また、消防団、シルバーホンなど既存のものを活用することで導入しやすいのではないかと思います。少人数であることを活かし、意見が割れた際は多数決を取るのではなく時間をかけて話し合うことで、全員が納得できる政策案になりました。

政策提案概要書

1. 現状とテーマ設定の動機

現在の 119 番通報入電から現場到着時間までの時間（以下現場到着時間）は約 8 分で、10 年間で 0.3 分伸びている。今後も現場到着時間は延びていくことが予想される。心臓と呼吸が停止してから救急車到着まで何も措置をしなかった場合、救急車到着時には命が助かる可能性は 10%以下になり高い救命率は望めない。また、新生児では 1.4%、乳幼児では 1.7%、少年では 4.0%、成人では 11.3%、高齢者では 20.2%と年齢が上がるにつれて、搬送理由の中で脳疾患・心疾患等占める割合が高くなっており、高齢者では搬送理由の 20%をしめている。そのため単身で生活している 65 歳以上の高齢者の迅速な救命に重点を置くことにより救命率を上げることができるのではないかと考える。脳疾患・心疾患などの分刻みで進行する病態の悪化を食い止め、社会復帰を導くためには、現場に居合わせた市民と救急隊および病院の密接な連携が必要¹⁾とも言われている。加えて、早めの処置は症状の重症化を防ぎ、その後の後遺症を最小限に抑えることができると言われている。後遺症を最小限に抑え、退院後の生活を今までの生活に近づけることは生活の質を上げることにもつながる。そこで私たちは、消防団の救命知識の活用とシルバーフォンの改造により、より迅速な救命方法を提案する。

2. 政策概要

利用者のシルバーフォンでの 119 番通報があると消防団にも連絡がいき、救命士が駆けつける前に一次救命措置を行う。家族は移動中や仕事の場合電話に出られない可能性があるため、伝達手段を電話からスマートフォンのロック画面に表示できるように変更する。また、現在、緊急時安心キットを使用し冷蔵庫に保存している個人情報シルバーフォンに組み込むことにより、ボタン 1 つでかかりつけ医などの個人情報を知ることができるようにする。

3. 期待される効果

- ①迅速な救命が行うことができ、救命率を上げることができる。
- ②個人情報を素早く入手できることで、連携を素早く行える。
- ③家族への伝達が素早く可能となる。

4. スケジュール（この政策を行うまでに必要なこと、担当する部署など）

- ①単身 65 歳以上の高齢者を特定する
 - 市の職員が家庭調査を行い、年齢、家庭の人数、家族、親族とのつながりなどを把握する
- ②対象者へシルバーフォンの説明、導入を推奨する
- ③シルバーフォンの導入
 - 電話回線や取り付けまでを請け負う
- ④消防団への新たなシステムの周知
 - どのような流れで情報が伝わるかなど、消防署との連携を行う
- ⑤消防団の人員の確保
 - 救命知識の再教育と、新規加盟者への教育

引用文献

- 1) 救急隊員用教本作成委員会,救急隊員標準テキスト.株式会社 へるす出版, 東京 2013

グループ紹介

大学名	日本大学
グループ名	日本大学福島ゼミナールAチーム
発表テーマ	(共通テーマ) サイタマップ
指導教員	福島 康仁

参加学生

氏名(ふりがな)	学部・学年	氏名(ふりがな)	学部・学年
【代表者】 山崎 利駆 (やまざき りく)	法学部 3年	()	学部 年
根本 雄介 (ねもと ゆうすけ)	法学部 3年	()	学部 年
川井 大和 (かわい やまと)	法学部 3年	()	学部 年
住本 佑太 (すみもと ゆうた)	法学部 3年	()	学部 年
長田 裕香 (おさだ ゆうか)	法学部 3年	()	学部 年
常盤 葉奈 (ときわ かな)	法学部 3年	()	学部 年
萩野 希映 (はぎの きえ)	法学部 3年	()	学部 年
晝岡 七海 (ひるおか ななみ)	法学部 3年	()	学部 年

検討・提案について(アピールポイント、反省点、所感など)

私達はビニール風呂敷を使ったゴミ袋にもなるマップを提案していますので、そのサイタマップを実際に作ってみました！是非注目して下さい！

政策提案概要書

「2020年東京大会に向けたおもてなし」をテーマに、オリンピック開催中のゴミのポイ捨て問題を課題にしました。そこで、ビニール製風呂敷を使った政策を提案します。

【課題】

さいたま市と広島市のポイ捨てゴミの量を比較すると、さいたま市は広島市の4倍のポイ捨てゴミがあり、ポイ捨てが行われやすい環境となっています。また、どのような観光客がポイ捨てを行うのでしょうか。外国人に対応した事業者へのアンケートで、ポイ捨てを含むマナーが悪かったと回答した割合が高かったので、外国人観光客のポイ捨てが、特にポイ捨てゴミの増加につながると考えました。

【政策】

ポイ捨てゴミの解決策として、外国人に人気のある風呂敷を使った政策を提案します。提案する風呂敷はビニール製でありゴミ袋として使用することができます。外国人に需要がある観光、防災マップも載っています。その名も「サイタマップ」です！風呂敷の表面にはマップと風呂敷の結び方を動画で見ることができるQRコードを載せ、裏面は応援グッズとして応援の言葉を書き込めるようになっています。サイタマップがポイ捨ての減少に繋がる理由は、「風呂敷」と「マップ」がゴミを「袋に入れたくなる仕掛け」と「持ち帰る仕掛け」として機能するからです。

風呂敷の製作は行政と考えていますが、予算については、広告欄を設けることで、さいたま市の企業から協賛を募ります。また、風呂敷を配るなどの都市ボランティアの役割もございます。

オリンピック開催後にも様々なイベントでの配布で多くの効果が見込まれます。

【効果】

この政策により、きれいな景観、観光情報の入手などの外国人来場者に対するメリットが生まれます。その他、様々なアクターとの協賛が図られることによって「2020年東京大会に向けたおもてなし」が達成されるのです！

グループ紹介

大学名	日本大学
グループ名	福島ゼミナールBチーム
発表テーマ	(共通テーマ) さいたまフォトラリーツアー ～文化芸術によるおもてなし～
指導教員	福島 康仁

参加学生

氏 名 (ふりがな)	学部・学年	氏 名 (ふりがな)	学部・学年
【代表者】 くさま ひろあき (日馬 啓晶)	法学部 3年	()	学部 年
いしやま こう (石山 航)	法学部 3年	()	学部 年
たしま たいせい (田島 大成)	法学部 3年	()	学部 年
こばやし なおあき (小林 直陽)	法学部 3年	()	学部 年
はなおか ひなな (花岡 妃七)	法学部 3年	()	学部 年
たかはし ゆき (高橋 由樹)	法学部 3年	()	学部 年
ひらい せいか (平井 青鳥)	法学部 3年	()	学部 年
()	学部 年	()	学部 年

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

今回の政策によって、さいたま市の文化を世界に発信することができる。
さいたま市は、盆栽や鉄道など、日本の優れた文化を有しているが、「文化芸術のまち」と捉える人は少ない。そのため、オリンピックはさいたま市の文化を多くの人に知ってもらう絶好の機会となる。このチャンスを最大限に活かすための政策として、私たちは「さいたまフォトラリーツアー」を提案する。この政策によって「文化芸術のまち」としての認知度が向上するだけでなく、観光客の増加にも期待できる。

政策提案概要書

さいたまフォトラリーツアー

～文化芸術によるおもてなし～

日本大学 福島ゼミナール B チーム

1、現状・課題

さいたま市は 2020 東京オリンピックのサッカー・バスケットボールの試合会場として、さいたまスタジアム・さいたまスーパーアリーナが使用されることが決定している。

オリンピックにおいてはスポーツの祭典だけでなく文化プログラムの実施が規定されている。さいたま市は「さいたま市文化芸術都市創造計画」に基づき文化芸術の創造性を活かしたまちづくりを行っている。しかしさいたま市を文化芸術のまちと捉える人は少なく、魅力を活かしきれていないというのが課題である。

2、政策内容

そこで、「さいたまフォトラリーツアー」を提案する。この政策は、私たちが現地調査で考えた「盆鉄神ルート」に沿ってオリンピック観戦に訪れた外国人観光客にフォトスポットを巡ってもらい、フォトアルバムを作ってもらうことが目的である。このフォトアルバムは WEB 上に掲載したスマホ版台紙を、観光客にダウンロードしてもらい、撮った写真をアップロードすることで自分だけの作品を簡単に作成することができる。また、この政策はオリンピック観戦前の観光客を対象とする。会場近くに臨時の印刷機を設置することで観光客はカタチに残るさいたま市での思い出を購入することができる。これにより、オリンピック観戦だけでなく、さいたま市の文化芸術を楽しんでもらうことが狙いである。

3、まとめ

盆鉄神ルートで巡る盆栽村・鉄道博物館・氷川神社の魅力を国内外に発信することでさいたま市が文化芸術都市としての認知度が上がり、課題解決を図ることができる。また、さいたま市の公式 Instagram を活用し、事前に「さいたまフォトラリー」を拡散することでさいたま市をより知ってもらえるキッカケを作ることができる。さらに、フォトラリーツアー中に観光客が飲食店などに立ち寄ることで、経済効果も図られる。

展望として将来的に観光客が増加し、文化芸術都市だけでなく観光のまちとして発展することも期待される。

グループ紹介

大学名	人間総合科学大学
グループ名	UHAS CLUB
発表テーマ	(共通テーマ) 瞬間保冷剤を活用した熱中症対策
指導教員	梅國智子

参加学生

氏名(ふりがな)	学部・学年	氏名(ふりがな)	学部・学年
【代表者】 小澤 裕人 (おざわ ゆうと)	人間科学学部 2年	高瀬 匠 (たかせ たくみ)	人間科学学部 3年
荒井 皓望 (あらい つくも)	人間科学学部 3年	木戸 里香 (きど りか)	人間科学学部 1年
落合 航平 (おちあい こうへい)	人間科学学部 2年	伊藤 未来 (いとう みく)	人間科学学部 1年
中井 萌絵 (なかい もえ)	人間科学学部 2年	門倉 明日香 (かどくら あすか)	人間科学学部 1年
中村 郁美 (なかむら いくみ)	人間科学学部 2年	黛 珠里 (まゆずみ しゅり)	人間科学学部 1年
鳩貝 沙耶佳 (はとがい さやか)	人間科学学部 2年	加藤 葉瑠希 (かとう はるき)	人間科学学部 1年
高橋 俊輔 (たかはし しゅんすけ)	人間科学学部 4年	岸林 豪 (きしばやし ごう)	人間科学学部 1年
吉川 青志 (よしかわ あおし)	人間科学学部 4年	鈴木 智弘 (すずき ちひろ)	人間科学学部 1年

検討・提案について(アピールポイント、反省点、所感など)

2020年7月25日から、さいたまスーパーアリーナではバスケットボール、さいたまスタジアムではサッカーが行われる。共にオリンピック当日は、温帯特有の高い湿度と高い気温により、熱中症のリスクがあると考えられる。私たちは費用対効果の高い熱中症対策として保冷剤を活用するとした。日傘やうちわなどでは人が多いオリンピックでは、邪魔になってしまう可能性がある。また、温度のみえる化や飲料の配布などでは観戦者自身の判断に委ねられてしまい、自覚症状の低い脱水では気づかないリスクがある。保冷剤の活用により、観戦中も邪魔になることが無く、原価が安価であるので少ないコストで熱中症予防を行うことができる。

政策提案概要書

1. 埼玉県現状

都心部を中心に地表面の人工化や人口排熱の増加などが原因となり引き起こされる。ヒートアイランド現象が進み、熱中症患者が年々増加傾向にある。埼玉県は海なし県とも呼ばれており、周りが陸地に囲まれて風が弱いことから埼玉県全体の気温上昇を抑えることは難しい。

2. 海外の人が日本の暑さをどのように感じているのか

アンケート調査によると海外の方は、来日した際に母国よりも日本の方が暑いと感じている方が多い。想像以上の暑さであるため、海外の方は暑さ対策が不十分であることが懸念される。そのため、オリンピック開催にあたり、炎天下の中での応援は暑さ対策が必要になってくる。

3. 問題提議とその理由

過去にうちわでおもてなしという政策があったが、扇ぐ労作により競技の観戦に集中できなかつたり、人ごみの中では迷惑になることも考えられる。保冷材は、直接、首筋などにあてるだけで、暑さを効果的に軽減することができる。そのため、各競技場において保冷剤を配布あるいは販売することにより、熱中症対策にも繋がると考えた。

<提案理由>

1. うちわと比べると保冷剤の方が涼しく感じる。
2. 保冷剤はコンビニに売っておらず、入手が困難。
3. 熱中症を発症してしまった場合にも効果的に体温を低下させることが可能。
4. 1人でも使用可能。
5. リサイクルも可能。

4. 政策概要

夏季東京オリンピックは日本で最も暑い時期での開催であるため、熱中症対策が問題となる。この予防として、水分をとることも有効ではあるが、より快適にオリンピックを観戦していただくには、保冷剤を使って身体を冷やし、暑さを和らげることが良いのではないかと考えた。保冷剤にも種類があり、あらかじめ冷凍しておくものと、緊急時などに瞬時に冷えた状態にして使用できる瞬間保冷剤がある。価格が安価なあらかじめ冷やしておくタイプの保冷材は、会場内にて無料で配布し、観戦時に使用してもらうように、熱中症に対する注意喚起を掲示する。また、海外の方でも使用方法が分かるように、裏面に使い方を多国籍語で表示する。保冷剤の表には、さいたま市にちなんだ絵、海外の方に好まれるようなデザインを募集してプリントする。デザインの募集は、地域住民との一体感も生まれると考えられる。瞬間保冷剤の方は、使用后また凍らせておけば普通の保冷剤として使えるものも多いため、すぐに使用しないような方に今後の日常生活に役立てていただいたり、お土産として販売する。以上のことから、保冷材によって、熱中症対策だけでなく、都市装飾などの効果も生まれると思われる。

歴代受賞グループ一覧

第1回 平成23年11月20日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ さいたま市を魅力あるまちにするための政策・事業

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	内田ゼミ	共栄大学	ツール・ド・さいたま ～日本最大級のサイクルイベントへの開催～
優秀賞	花盛り（はなざかり）	聖学院大学	さいたま市空き地・休耕地活用事業
	埼玉県立大学 作業療法グループ	埼玉県立大学	義務教育におけるノーマライゼーションをめざして
	外山ゼミナールチーム ～100年の絆～	日本大学	さいたま市これからの100年 ～官学協働計画～

第2回 平成24年11月18日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ さいたま市のブランド力の向上のための政策・事業

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	内田ゼミ	共栄大学	さいたま発の盆栽ブランドの開発
優秀賞	S P U ☆ O T 9	埼玉県立大学	さいたま10の区地域の輪 ～地域交流活性化を目指したシステム構築～
	外山ゼミナールA	日本大学	『鉄道のまち ルネッサンス計画』
	外山ゼミナールB	日本大学	さいたま11区を創ろう！しあわせタウン

第3回 平成25年11月24日（武蔵浦和コミュニティセンター 9階多目的ホール）

提案テーマ さいたま市を「選ばれる都市」にするための政策・事業

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	福島ゼミナールA	日本大学	I C Tによる交通政策
優秀賞	内田ゼミ	共栄大学	人形の町さいたまの復活
	社会福祉学科3年	埼玉県立大学	都市交縁（こうえん）計画～公園から始まる地域のつながり～
	川俣ふおーらむ	埼玉県立大学	市民に愛される街～市民参加型の新しいフォーラムの形～

第4回 平成26年11月16日（武蔵浦和コミュニティセンター 9階多目的ホール）

提案テーマ 市民一人ひとりがしあわせを実感でき、市民や企業から選ばれる都市にするために

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	福島ゼミナールA	日本大学	振り込め詐欺対策
優秀賞	健康栄養 & 幼児保育学科 コラボチーム	国際学院埼玉短期大学	『さいたま市ヘルスプラン 21 目標達成に向けて』～“ヌウ”ってメタボじゃない！？このままで大丈夫！？～
	Let's OT!	埼玉県立大学	コミュニティ強化のための「心の視覚化政策」
	内田ゼミ	共栄大学	低糖質でメタボ中年からスイーツ紳士へ～健康都市 さいたま～

第5回 平成27年11月8日（武蔵浦和コミュニティセンター 9階多目的ホール）

提案テーマ さいたま市のおもてなしスタイル

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	齋藤ゼミナール	埼玉大学	うちわによるオリンピックの暑さ対策
優秀賞	Shall We OT?	埼玉県立大学	Boys, be ambitious 計画～高校生ボランティアと医療アプリの普及について～
	福島ゼミナールA	日本大学	文化芸術によるおもてなし
	福島ゼミナールB	日本大学	まちの美化によるおもてなし

第6回 平成28年11月20日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ 東日本の交流拠点都市

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	OT' S	埼玉県立大学	ウォーキング×イベント～東日本まるごと健康プラン～
優秀賞	福島ゼミナールA	日本大学	かるたを使って発信～東日本の魅力が見つかるた
	福島ゼミナールB	日本大学	～備えあれば憂いなし～シェルたまプロジェクト
	齋藤ゼミナール	埼玉大学	Relations of Victory～VRを活用した広域連携による観光促進事業～

第7回 平成29年11月19日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ 若い世代の定住促進

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	齋藤ゼミナール	埼玉大学	3 S System Saitama Scholarships return Support～定住のための若者支援制度～
優秀賞	UHAS.com	人間総合科学大学	埼玉食健美 健康ダイエット in さいたま
	福島ゼミナールB	日本大学	SAITAMArriage さいたまマリッジ
	OT' ASH	埼玉県立大学	自分らしく生きられるさいたま市～あいたまアプリでさいたま？からさいたま！へ～

第8回 平成30年11月18日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ 健康で活力ある「スポーツのまちさいたま」

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	チーム青志	人間総合科学大学	彩☆スポ ジュニア栄養サポート制度
優秀賞	齋藤ゼミ	埼玉大学	Reward×Walk ～歩いて手にする商品と健康～
	健康増進授業	芝浦工業大学	大学を拠点とした健康増進授業の取り組み ～健康で、笑顔のあふれるまちづくりのために大学ができること・・・～
	押久保ゼミ	埼玉県立大学	スキマ時間でスポーツを身近に ～ふっくらたまちゃんスリム化作戦～

「大学コンソーシアムさいたま」とさいたま市との連携について

1 大学コンソーシアムとさいたま市との包括協定の締結

(1) 概要

平成23年10月26日、さいたま市内及び近隣の大学により、「大学コンソーシアムさいたま」が設立されました。

また、同日開催された市と大学との座談会で、市と「大学コンソーシアムさいたま」が、幅広い分野において密接な協力と連携を図り、双方の発展や地域社会の発展に寄与することを目的として、包括協定を締結しました。

(2) 大学コンソーシアムさいたまの概要

① 目的

大学相互の自主性を尊重しつつ、大学が有する知的資源を活用した活動を行うとともに、大学相互の連携及び交流と活力ある地域社会の形成及び発展に寄与することを目的とします。

② 連携内容

教育及び研究分野における連携に関すること、会員と地域社会の民産学官との連携及び交流の促進に関することなどを行います。

③ 加盟大学

埼玉大学、埼玉県立大学、浦和大学・浦和大学短期大学部、慶應義塾大学薬学部、芝浦工業大学、聖学院大学、日本大学法学部、人間総合科学大学、放送大学埼玉学習センター、目白大学、国際学院埼玉短期大学

2 「大学コンソーシアムさいたま」と市との包括協定に基づく連携内容

福祉・教育・経済等の幅広い分野において、互いが有する人材、施設、情報等の活用について連携しています。

【主な連携事業】

- ・大学による地域の課題解決・活性化支援事業等
- ・さいたまスポーツシューレへの協力
- ・さいたまクリテリウム広報部への協力
- ・Saitama Sunday Soup（日曜日は食べつくスープ！）への協力